

# DXによる成長企業の発掘と新たな伴走支援モデルの構築 2025年4月~2026年3月実施予定 (静岡県産業振興財団)

＜事業計画申請時＞

☑地域課題解決の取組や複数の地域支援機関の相互連携強化等の取組に該当する場合は、チェックしてください。

**【課題】**

- ・中小企業の支援メニューを多数用意しているが、中小企業経営者等に支援メニューが届いていない。＜支援先の固定化＞
- ・デジタル化対応した支援体制が整っていない。＜デジタル化進展＞

**デジタル化に対応した新たな支援体制の構築が急務**

**【本事業の内容】**

接点	情報発信	企業訪問
現状	<b>HP</b> ・支援メニューの発信とメルマガ登録 ・マルチデバイス非対応 <b>メールマガジン</b> ・約2,300先に外部から定期配信（毎月2回） ・登録先への一斉配信のみ	<b>支援</b> ・パンフレット配布 ・アナログ対応（デジタルツールなし）

**【成果目標】**

▶直接的成果目標

- ・メルマガ登録：10,000先（現在：2,300先）
- ・新規支援先：100先
- ・HPアクセス数：100,000PV
- ・デジタル対応の支援モデルの検証

▶間接的成果目標

- ・ペーパーレス化：▲30%

**【目的】**

県内に約10万社の中小企業が存在するが、各中小企業のステージに適した情報をタイムリーに届け、成長志向の高い中小企業（中堅候補）の発掘力が弱いので、発掘力を高め、関係構築するとともにデジタルによる中小企業の伴走支援モデルを構築する。

ホームページ（HP）をマルチデバイス対応にリニューアルし、情報発信力を高めアクセス数を増やすとともにメールマガジン等の登録者を増大させる。（名刺管理ソフトも導入し、支援先の名刺情報を管理してターゲットに向けた情報配信を行う）また、HPとタブレットによる企業訪問時のサービス向上を目指す。

**【主な改善点】 成長志向企業発掘と支援先への伴走支援**

1. HPから情報発信しているが、スマホ等のマルチデバイスに非対応などアクセス数（75,000PV/年）が伸びていない。アクセス数を増加させメルマガ登録に誘導するため、コンテンツマーケティングを導入する等、双方向対話とマルチデバイスへの対応が必要。
2. デジタルを活用した支援先との関係構築や企業訪問ができていない。タブレットを導入し、顧客DBの成長ステージを基にしたデジタルを活用した効果的な伴走支援モデルの調査・検証が必要。
3. 支援先に対するメルマガの配信先は2,300先程度で、支援情報が多くの中小企業に提供できていないといえない。また、属性情報も把握していないため、支援内容別にセグメント別配信ができていない。名刺交換先や支援メニュー利用先を情報提供先として登録し、支援先に適した情報発信をすることが必要。

**【波及効果の目標】**

- ・新しい支援先を発掘し支援メニューを活用いただくことで、県内中小企業のイノベーションや成長志向企業の更なる成長を支援して県内経済の発展に貢献する。
- ・デジタルツールを活用することによる効果をPRし、中小企業に対してDXへの取り組みを啓蒙する。

**【都道府県の施策との連携・親和性】**

静岡県が推進している事業

- ・情報発信事業（HP、メルマガ）
- ・DXによる労働生産性向上

**『必要な情報を必要な企業に必要な時に届け、成長志向の支援先を発掘する』**

接点	情報発信（成長企業発掘）	双方向	企業訪問（DX伴走支援）
試験的な取組み	<b>HP</b> ・コンテンツマーケティング、WEB受付、メルマガ登録の導線確立 ・マルチデバイス対応 <b>メールマガジン等（自己資金）</b> ・名刺管理ソフト導入により、タイムリーにセグメント別配信への対応 <b>コーディネーター増員（自己資金）</b> ・企業訪問体制強化		<b>HPとタブレットによる支援</b> ・タブレット端末導入 ・デジタル活用：音声認識、WEB登録、動画活用、WEB会議、タスク管理、クラウドソフト、QRコード、AI等ツール活用 ・顧客DBから成長段階に適した支援メニューを提供（よろず拠点他）

**『双方向対話によるデジタル時代の中小企業の伴走支援モデルを調査・検証する』**

**【将来の支援目標】**

- ・WEBとよろず支援拠点等の地域支援機関との協力体制により東西に広い静岡県内企業へ支援施策を周知させ、100億円企業を創出。
- ・デジタルを活用した支援機関の伴走支援モデル構築。

